

たり。それを見て、ある人のいはく、
「かきつばたといふ五文字を句の上に据
ゑて、旅の心を詠め。」と言ひければ、
詠める。

唐衣きつつなれにしつましあればはる
ばる来ぬる旅をしぞ思ふ

と詠めりければ、皆人乾飯の上に涙落と
してほどびにけり。

〔伊勢物語〕光村図書三年

〔高等学校「国語Ⅰ」〕

確認問題

中学校

高等学校

当時の旅の様子について、図書館などを積極的に活用してグループで調べて発表してみよう。
和歌を聞いた人々が涙を落としたのはなぜか。地の文と和歌との関係を踏まえて、その理由を書いてみよう。

にはいられなかった人々の心情を想像させる
ことにより読みを深めたい。また、和歌の技
法に触れながらそこに込められた「男」の思
いについて考えさせる。

○係り結びの法則の確認
文末を調べ、「ありけり。」「行きけり。」「
いひける。」「食ひけり。」「ほどびにけり。」「
の中で、形の異なる用例があることに注目さ
せ、係り結びに気付かせる。また、これまで
に学習した係り結びの例を挙げさせるととも
に、高等学校においてさらに詳しく学習する
ことを知らせる。

【古典に関わる言語事項】

◆古今異義語に注目させることにより、

- 古文に親しませる。
- 「いたりぬ。」の「ぬ」は打消の意
味ではなく、完了の意味をもつ助動
詞であることを確認する。
- 「おもしろく」は現代語の「おもしろ
い」とは異なる意味をもつことを
知らせ、その他にも「あはれ」「を
かし」などの言葉にも、現代とは異
なる意味があることを知らせ、言葉
に対する興味をもたせる。

間一語でも辞書を通して言葉を確認し、辞書
に親しませることが大切である。

○修辞技法の理解を通して和歌に込められた
思いを読みとる
和歌の修辞技法については、一方的に教え
込むより、むしろ生徒に発見させることに重
きをおくことも大切である。(序詞・枕詞・
縁語・掛詞・折り句など)

また、和歌を通して、都に残してきたひと
に対する「男」の恋しさを読み取らせること
により、作品の主題に迫るとともに、「伊勢
物語」の他の章段についても紹介して、古典の
世界を広げる。

【古典に関わる関連学習】

◆次のような学習も効果的である。

- 作品中の地名(八橋など)の起源に
ついて、グループで調べる。
- 歴史についての学習との関連を図り、
他教科の教員との共同の授業や研究
を工夫する。
- 旅の文学という観点から、他の古典
作品について班別に調査し、発表さ
せる。また、この作品が、「源氏物
語・須磨の巻」における貴種流離譚
の一つのモデルになっていることに
ついて触れ、興味・関心を喚起す
る。